

第3回通学路の更なる安全対策有識者懇談会（R5.1.5開催分） 会議録要旨

各項目におけるこれまでの検討内容とその経過について報告し、有識者の方々により、主に以下の内容について意見交換が行われた。

①田辺通6短期対策について

- ・カラーエスコートについて、地元にも十分説明のうえであれば良いが、本来歩行空間の明示が全市的に統一された方針にも関わらず、対策案は一貫性から逸脱することになり、違和感がある。
- ・通学路路面標示と法定外標識の記載内容は統一した方がわかりやすい。
- ・従道路側の横断歩道部にも主道路側と同様に緑色のカラーを設置した方が良い。
- ・今回の短期対策による効果検証の手法として、プローブデータを用いるよりもビデオ観測の方が適している。また地元の声を聞き、安心感などの心理的な効果についても抑えられると良い。

②モデル交差点の対策案について

- ・交差点コンパクト化の検討にあたっては、バス等の大型車の走行軌跡を考慮する必要がある。
- ・維持修繕が主目的の工事であったとしても、その時に必要な安全対策を同時に的確にやることを徹底していくことが必要。
- ・対策内容について、そこを通学する児童に対し紹介する機会を設けて、指導に繋がると良い。

③重点対策135箇所と通学路全般の見通しの確保について

- ・意見なし

④ラウンドアバウト検討結果について

- ・留意事項(案)一覧表の(3)交差点形状については、他の項目で評価できるので、記載不要。
- ・事故発生件数等の指標に依らず、地元からラウンドアバウト導入の強い要望がある場合は、検討の対象としても良いと考える。

⑤子どもを守る交通安全対策について

- ・「子ども向け教育の強化」や「関係機関による安全対策の強化」について、家庭や地域へのフィードバックを意識したコンテンツにすることで、「ドライバー向け啓発」の一般の方向けにも繋がると考える。

○その他（全体を通しての意見）

- ・児童福祉の観点から、安全教育を通して、子どもが主体となり安心して生きられる権利を守り、その権利を子ども自身が感じられると良い。
- ・子どもが野外で元気よく活動できる環境づくりが重要で、その必須条件が安全であり、短期的な安全に限らず、長期的に地域で子どもを育てていくことが、安全に繋がっていく。
- ・これまで検討した内容を実現していくために、常に横の繋がりを持って進めていくことが重要。
- ・こういった検討する機会を持つことで新たな視点で考えることができた。今後はどうアクションに移していくか、引き続き各方面から進めていただきたい。

上記の意見を始めこれまでに頂いた意見を反映して、第3回通学路の更なる安全対策検討会にて、検討結果として諮り、市の方針として定め、来年度以降対策を実施予定。